

審査報告

第49回農林水産祭参加行事として、第35回熊本県い業大会のい草・い製品品評会が開催されましたが、この審査の経過と結果概要について、審査員を代表してご報告申し上げます。

まず、本年度産いぐさの栽培期間の気象及び生育概況について申し上げます。植付け時期前の10月頃から降雨が多く本田の準備が十分ではない状態で植付けに入ったところも見られましたが、植付直後の株の枯死は少ない状況でした。また、2～3月の地干しの時期は気温が高く、降雨も多めで根傷みが懸念されましたが、本年はその程度は低かったようです。3月下旬から4月下旬は全般的に気温が高かったこともあり、前年に比べて着花は少ない傾向がありました。4月下旬から5月・6月前半にかけて降雨が少なくほ場が乾燥気味となり茎の伸長は抑制された反面、新芽の発生は多めで推移しました。6月後半からまとまった降雨があり茎の伸長は回復しました。

その結果、収穫したいぐさは早刈・普通刈ともに収量は多く確保され、品質面でも着花茎が少なく、6月後半以降に茎が大きく伸長したにもかかわらず茎は硬めで充実したものが多くなり、その点では良好であったと思われまます。

審査会は10月16日にJAやつしろ麦島集荷所を会場に開催されましたが、出品点数は、い草部門131点、い製品部門105点、合計236点にのぼりました。本品評会に出展された皆様方に心から敬意を表する次第であります。

審査にあたりましては38名の審査員が審査要領と採点基準に基づいて、い草の部、い製品の部に分かれて、専門的な立場から公平かつ厳正に審査を行いました。

い草部門については原草本来の材質特性である品質に重点をおきました。本年は特に「ひのみどり」で茎の充実がよいものが多かった反面で、やや先枯れが目立ったようでした。一部でムラ染めが見受けられたものの、品質は良好で皆様方の努力のあとが伺われました。

い製品部門については品質・規格などをふまえて総合的に審査しました。本年は「ひのみどり」及び一般品種ともに、根白や茶もとは少なく、品質の優れた製品が多く出品されていましたが、中には加湿が十分でないものやムラ染め等が見られましたので今後一層の技術向上に取り組まれることを期待したいと思います。

本年は、熊本県の奨励品種であります「夕風」に加えて「ひのはるか」の栽培・加工が本格的となり、「一般品種」として出品されましたので、い草・い製品両部門とも「一般品種」の品質がかなり上がったといえます。「ひのみどり」とあわせて、これらの品種の特性をいかした栽培・加工を行なっていただきたいと思ひます。

なお、一部に出品規格に適合しないものがございますので、出品にあたりましては今一度規格の確認をお願い致します。

以上が審査の概要でございます。いずれも優秀品が多く技術に優れ、審査にあたりましては大変苦心致しましたが、審査員協議の結果、

い草部門では優等 2点、1等 4点、2等 8点、3等 16点、計 30点(うち農林水産大臣賞 1点、生産局長賞 1点、九州農政局長賞 1点、熊本県賞 1点、全国い生産団体連合会長賞 2点)

い製品部門では、優等 4点、1等 8点、2等 16点、3等 12点、計 60点(うち農林水産大臣賞 1点、生産局長賞 1点、九州農政局長賞 1点、熊本県賞 1点、全国い生産団体連合会長賞 4点) 両部門を通じて合計 90点を推薦致しました。

大会会長におかれましては、褒賞規程に基づき表彰下さいますようお願い申し上げます。以上をもちまして、審査報告と致します。

平成21年10月18日

第35回熊本県い業大会 い草・い製品品評会審査長
熊本県農業研究センターい業研究所長 田中良典